

稲 山 会 通 信

第41号

2020年7月1日発行

発行人：斉藤雄二 発行所：稲門山の会事務局 TEL 03-3367-3723 FAX 03-3367-8150 ©稲門山の会1998

巻頭言：役員会新体制について

稲門山の会代表 行方正幸

このたび、「稲門山の会」の代表に就任することになりました、行方正幸（S51年法卒）です。その責任の大きさに身の引き締まる思いです。

皆さんもご存知のように、一昨年は高野 OB、昨年は現役の利藤君の遭難が発生し、前代表の斉藤さん、副代表の新井さん島田さんらに対応でご苦労され、心労は大変なものであったと思います。その後も引き続き遭難対策、山の会の活動再開に尽力された早稲田大学・理工学部教授の秋山会長、OBや現役の皆さんにもお礼申し上げたい。本当にありがとうございます。

今回、私に若い OB とのつなぎ役をやれとのお鉢が回ってきた訳ですが、私も2年前にクライミングジムで大怪我をしてリハビリ中。身体はまだ充分に戻っておりません。でも遭難対策の経験は結構あるので、山で二度と遭難を起こさないことを第一に、以前のような安全で楽しい登山ができる「稲門山の会・早大山の会」に戻してゆこうと考えていました。

ところが、今年に入り、全世界は新型コロナウイルスの感染爆発という大惨事に見舞われ、東京オリンピックも延期となりました。近年、我が国は東日本大地震、生命に関わる猛暑や超大型台風という極端な異常気象などに見舞われました。今回の新型コロナ禍の「緊急事態宣言」で、人気のある山に登山者が集中すること、狭い山小屋や天幕の生活が三密の温床なるということで、登山やハイキングについて自粛が求められています。残念ながら、しばらくの間、活動を縮小することになりますが、登山で培った気概で新型コロナウイルスなんかに負けないで、再び「稲門山の会・早大山の会」というフィールドで元気に再会致しましょう。

皆さんのご協力をお願い致します。よろしく。

さて、今年度の役員会・執行部ですが、新年の総会で、各役員が紹介されています。当通信の総会・新年会報告に、役員名と担当が記載されていますので、ご参照ください。このメンバーで一年間やりますので、よろしくお願い致します。尚、前正副代表の斉藤さん、新井さん、島田さんに暫くの間、顧問として私どもの相談にのっていただきます。

2020 年稲門山の会総会・新年会報告



快晴の2月1日に、OB・OG45名、学生12名の合計57名が大隈会館に集い、2020年度の総会・新年会が開催された。開会に先立ち、2019年に物故者となられた利籐暢君を含む8名の方々に黙禱を捧げた。

斉藤代表より代表・副代表の交代と新任役員の紹介があり、各人の自己紹介と役割に対する抱負などが熱く語られた。新役員は以下の通りである。

行方正幸 (S50 年卒)	代表 稲山会通信担当
豊田紳二 (S47 年卒)	副代表 現役担当・窓口
常数英昭 (S49 年卒)	副代表 総務・現役担当
倉川秀明 (S51 年卒)	副代表 現役担当
松村幹雄 (S48 年卒)	行事担当
後藤洋一郎 (S49 年卒)	現役担当・窓口
柴原至 (S52 年卒)	会計・行事担当
山本達也 (H17 年卒)	現役担当
鹿間行喜 (S52 年卒)	新任 現役担当
三宅辰幸 (S52 年卒)	新任 総務・会計担当
名達一彦 (S50 年卒)	事務局



行方新代表の挨拶と新役員の紹介

その後、退任役員の挨拶、会計報告に続いて講演の部に入った。今年の講演は、森田・豊田 OB (S47 年卒) 二人から、1971 年のヒマラヤ ヒンズー・ラジ山脈ツイー I 峰



講演前の挨拶をする森田・豊田 OB

(6,661m 当時未踏峰) 遠征および 1973 年の南米アンデス縦断登山の報告があった。ヒンズー・ラジ遠征は、山の会の現役 4 人による海外遠征であり、当時の時代背景、海外遠征に至る思い、情報が少ない中での計画策定、資金調達などの裏話もあり、結果として登頂には至らなかったものの、熱い情熱を強く感じさせる内容であった。アンデス縦断登山については時間の関係で詳細な報告はされなかったが、山の会の OB6 名・

学生 2 名 (うち 1 名は会員外) で構成された登山隊であり、登頂したベネズエラ・アンデス ボリバル峰 (5,007m) の氷河の当時と現在の写真の対比から地球温暖化の問題を問う内容であり、時間の経つのを忘れる熱い講演であった。

講演終了後は現役学生の自己紹介と、昨年度の活動についてスライドを使って説明があった。



現役学生の自己紹介

宮野 OB の乾杯の音頭で懇親の部が始まった。一年ぶりで再会する顔もあり、四方山話に花が咲いた。途中、笠原 OB による百名山達成の報告と、大きな年代の括りによる参加 OB の紹介と近況報告で盛り上がった。



宮野 OB の乾杯の音頭で懇親会が始まった

最後は倉川役員の音頭で校歌を高らかに歌い、来年の再会を誓い合ってお開きとなった。

総会・新年会出席者

S33 年卒 上田 OB
 S35 年卒 宮野 OB
 S36 年卒 新川、清水各 OB
 S37 年卒 加納、東、恩田、竹内、打矢各 OB
 S38 年卒 宇野澤、栗又、松村(啓)各 OB
 S39 年卒 真下 OB
 S40 年卒 田野辺、笠原、山崎、長谷川各 OB
 S41 年卒 斉藤、金子各 OB
 S42 年卒 渡辺、高岡各 OB
 S43 年卒 佐久間、上原、太郎良各 OB
 S46 年卒 島田、新井各 OB
 S47 年卒 森田、豊田各 OB
 S48 年卒 松村(幹)OB
 S49 年卒 常数 OB
 S50 年卒 加賀谷、行方、箕打各 OB
 S51 年卒 倉川、調、鹿間各 OB
 S52 年卒 狩野、角田、三宅各 OB
 H14 年卒 桐山 OB
 H17 年卒 山本、森本各 OB
 H18 年卒 中村 OB
 H31 年卒 目次 OB、厚木 OG



最後は肩を組んで校歌の大合唱

現役学生 真藤(M2、元幹事長)、柳田(3 年、前幹事長)、佐藤(3 年、幹事長)、齋藤(3 年)、阿部(3 年)、岡田(3 年)、糸林(2 年)、伊藤(2 年)、加治屋(2 年)、木村(1 年)、橋本(1 年)、佐山(1 年)

島田弘康 (S46 年卒) 記

会員近況報告

－ 2020 年総会・新年会の「返信はがき」より －

◆清水正昭(S33) 単なる通過点だった上高地も今は目的地に変わりました。春と秋に訪れては風景を楽しんでいます、特に最近外国人が増えてシーズン中は異国のようです。「ここは何処？ 河童も迷う 橋の上」。

◆上田訓央(S33) いつもいつもお役目ご苦労様です。当山の神社の所在地は限界集落の為、氏子がいなくなりました。よって、神主もやめざるをえません。長い間のご愛顧ありがとうございました。登山は楽しく安全が第一です。

◆大谷純通(S35) 専ら近山中心ですが、体力低下に抵抗しています。

◆宮野準治(S35) 昨年(令和 1 年)12 月に念願のオーロラを觀にカナダはイエローナイフ(北極圏近く)に行ってきました。オーロラは何色か？ 我々はテレビや雑誌で緑色、赤色、時に紫色と認識。肉眼では白色に見えます。たゞその動きは、まさに神秘的そのものです。また、オーロラが出る直前、街(車でオーロラヴィレッジから 30 分)の犬が一斉に遠吠えするのにはビックリ。久しぶりに－20℃の寒さを味わってきました。

◆吉澤章仁郎(S35) 片方の眼が不自由になり、登山、スキー、クルマは断念し、明日から約 2 ヶ月のオーシャンクルーズで“終活”して参ります。誕生日の元旦はレイテ島沖あたりで、84 才を迎えます。

◆新川浩司(S36) 経年劣化著しく、いつまで持つか？

◆清水保宏(S36) 旅も山も行っています。でも、だんだん少なくなってきました。

◆西山賢嗣(S36) 最近登山は御無沙汰です。年令 80 才を越え、同行者が少なくなったのが原因です。2 年前までは単独行を行っていましたが、この年令では無理になってきました。

◆小野文昭(S35) 当会参加にお声をかけて頂き誠にありがとうございます。今年 82 才を越え体調が思わしくなく、公式行事への参加は今後も含めすべて辞退させて頂いておりますので、よろしく願い申しあげます。ありがとうございました。

◆荒川秀夫(S36) 御盛會を祈ります。脚力が弱くなり、近隣散歩をしています。

◆山本貴次(S36) 所用があり、残念ながら今回は欠席します。健康状態は相変わらずです。

◆加納孝治(S37) 役員各位、ご苦労様です。新年会出席を楽しみにしています。“思いと体”が一致せず、“山”は遥か遠くとなりました。現役諸氏の安全山行を祈っています。

◆東正躬(S37) 当日を楽しみにしております。

◆恩田和夫(S37) 八十路も二年目に入りました。時々にお医者さまと仲良しになりながらも、到達点もコースタイムもわからない路をマイペースで歩いています。山靴も山スキーも脱ぎましたが、せめてハイキングシューズだけは履き続けたいと思っています。

◆金子弘吉(S37) 丁度、年頃なのか、年末から年始にかけて仏事に追われています。

◆鈴木健夫(S37) 病氣療養中です。

◆内藤錦樹(S37) 年相応に元気にしています。

◆胡桃哲(S37) 残念ながら外出もまゝならぬ身となり果てました。往年の山行を、ひたすらなつかしむばかりです。

◆打矢之威(S37) 元気です。12 月にドイツ、フランス、ポルトガルの巡礼の

旅に行きました。今年はエルサレムを計画して居ります。 ◆栗又功雄(S38) 山に登って描くことがしんどくなって来ました。最後に白馬に行きたいと思っております。

◆松村啓之亮(S38) 元気ではいるのですが、高尾山すら遠くなりました。何か新しいひまつぶしを見つけねばなりません。 ◆白倉俊夫(S38) 当日、幹事をやっている水彩画展の行事と重なり、欠席します。何とか元気に過ごしております。 ◆平賀守(S38) 10年前に脳梗塞を発症して以来、“寝たきり”一歩手前ですが、いたって元気です。皆様には50年以上もお逢いしておりませんので、本当に逢いたいです。NHK テレビBSの早朝番組をみて懐かしく思い出しています。盛会であることをお祈り致します。 ◆稗勤(S39) 最近、外出が減り東京にも中々行きません。銀座や渋谷もゆっくり見たいのですが。体重はへりましたが、元気に過ごしています。 ◆真下健弥(S39) 1/16入院、1/17手術(肺ガン)の予定があり、体調次第ですが、出来るだけ出席すべく努力します。

◆藤井榮二(S39) 元気でやっております。「通信第40号」大変楽しく読ませて頂きました。特に訃報・編集後記の物故者の方々は私と年令に近い方々で、厳しく山の魅力を教えてくれた方、共に山行に苦労した方々と本当になつかしく財産になっています。ありがとうございました。 ◆中込治文(S39) 年末に眼の手術を行い、外出、諸活動抑制気味になっています。 ◆笠原豊(S40) 町内会の防災・減災に関わり中です。行きたい山：西鎌尾根と不帰の嶮及び、日程組めれば自宅からの富士山。御同行を歓迎します。

◆山崎征彦(S40) 年1の定期健診で「異常なし」の結果を得て、相変わらずシルバー人材の仕事を続けています。 ◆長谷川徹(S40) 去年は体調を崩し、リハビリ中。今年もゆっくり山登りを楽しみたいと思っています。 ◆斉藤雄二(S41) 去年の川越まつりでは、町内の山車の先頭で、2日間で4万歩あるきました。でも山に登る心肺機能と足腰の強さはなくなりました。 ◆稲吉豊(S41) ボーと生きて、叱られもせず存えております。「日向ぼこ 三度数へる 猫のひげ」 豊 ◆久富征夫(S43) 何とかやっています。梅崎さんが昨年12月に死去されたそうです。 ◆渡辺征二(S42) もう無理はできないけれど、元気・健康にやっています。朝夕の相棒犬の散歩が日課になっています。

◆高岡勝(S42) ジムでラン・スクワット等で体を鍛えています。今年から低い山から登山開始予定です。 ◆佐久間正昭(S43) 翌日マラソン大会なので、酒の量を控えなければいけないのですが、出席します。 ◆上原敏行(S43) 皆様にお会いするのを楽しみにしております。 ◆太郎良博(S43) 去年は怪我の為、ほとんど山にいけませんでした。今年は低い山歩きからでも再開したいと考えています。古い山の道具を、意を決して少しずつ整理しています。当日は別件の所用で参加できません。盛会を祈念申し上げます。

◆丹治和男(S44) お酒を控えておりますので、欠席させていただきます。 ◆田邊清(S45) 今年3月で仕事を辞めフリーになります。足腰を鍛えようと思っています。 ◆島田弘康(S46) ここ数年は、有り余る自由時間を、テニス、ダイビング、登山などで過ごしています。しかし加齢と共に動きが年々厳しくなっており、これからは年齢に相応しくゆるやかに楽しもうと思っています。山の会役員会ではホームペー

ジ及びメール配信を担当しています。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

◆新井昭夫(S46) ハイキングですが、月に一度は登山靴を履き山に親しんでいます。

◆福田榮一(S46) 当日、法要と重なるため、欠席させていただきます。筋力低下防止のため、日頃からトレーニングに励んでいます。

◆西山一夫(S49) 11月、インドシナ半島最高峰ファン・シー・パンに登って来ました。

◆鈴木良一(S49) 2019年は夏に針ノ木、10月中旬に穂高、あとは静岡の近くの山に登っています。

◆原四男美(S49) 2020年度も、引き続きマレーシアに単身勤務致します。

◆常数英昭(S49) 皆様とお会いするのを楽しみにしています。社会福祉専門学校等で社会福祉担当の非常勤講師をしています。

◆小竹正雄(S51) 自家消費の野菜づくりが2年目を迎えました。一日、3時間から4時間までと、過度な負担(?)にならないよう、マイペースでいそしんでいます。

◆石原順三(S51) 会報39号の行方さんの夏合宿の素晴らしい記録有難うございました。楽しかった青春時代が蘇った感じがしました。

◆調昭雄(S51) 東中野、東西線落合駅3分に「しらべ鍼灸院」を開業して2年目になります。肩、腰、膝などの痛みを治療しています。認知症対応も研究中です。

◆狩野雅(S52) ここ数年は年に1回富士山、白山、剣、槍、鹿島槍、白馬などに出かけていました。あとは地元で山スキーぐらいで、旭岳、十勝岳あたりと地元低山で寒い思いをしています。

◆角田清隆(S52) 元気です。

◆亀田吉史(S52) 朝霞市の古墳発掘調査の作業員としてバイト中です！

◆里方昭彦(S58) 現役の事故は大変残念です。ご冥福をお祈り致します。

◆山本達也(H17) 台風19号の災害復旧工事に着任し、しばらく忙しい日々を過ごしております。

(文責：役員会)



シャクナゲ (十文字峠)



エゾノツガザクラの群生 (旭岳)



ニッコウキスゲの群生 (尾瀬)

投稿：信州の古道歩き 旧東山道保福寺峠

宮前一雄（S44 年卒）

日 時： 2019 年 11 月 5 日

メンバー： 金子治（S41 年卒）、太郎良 博（S43 年卒）、宮前一雄（S44 年卒）

まだ暑さの残る 9 月中頃、毎年のように温泉巡りの山旅と一緒に出掛けてる太郎良氏よりお誘いがあった。信州上田方面の歴史的な古道を越える峠歩きとのこと。近年すっかり足の衰えた私でも大丈夫そうなのでついていくことになりました。また、この峠に行くことを長年熱望していた金子さんも一緒され、計 3 人のメンバーです。保福寺峠（読みは「ほふくじ」ではなく、「ほうふくじ」が正しいそうです）。私はといえば誘われたこの時初めて保福寺峠を知ったぐらいで、明治の中頃、ウォルター・ウエストンがこの峠で日本アルプスを初めて眺め感動したということやら、古代律令国家の官道である東山道の途次にある峠だということなど、殆ど何も知りませんでした。行くからには若干の事前学習はしておいた方が良くかなと思い、簡単に知識を得ようとするとはやはり PC で検索ということになり、得た知識は大体以下のようなことになるのかなと思います。

古代律令制東山道の保福寺峠とウエストン

保福寺峠（標高 1,345m）には今は県道 181 号線という舗装はしてあるものの一車線の狭い道路が通っているだけでめったに車も通らない林道のような道で、バイクトレッカー御用達といったところでしょうか。上田市など東信地方と松本方面を結ぶ主要な道路は此の峠の南側に三才山トンネルのある国道 254 号線とか、青木峠を越える国道 143 号線とかもあり、この道を利用する人は殆どないようです。しかし、この峠を通る古代東山道は、飛鳥時代の律令国家のもとで整備された主要な官道の一つで、近江国から陸奥国に至る本州の内陸部の諸国を貫通して最短で結びました。主に国家統治・蝦夷征伐のための効率一辺倒の官道ですから、集落の生活などは無関係に中央と地方を効率的に結ぶ道路であったようです。道幅も広く直線的でハイウェイ的な道であったといえます。その途次に位置する信州には、美濃からこの道最難関の神坂峠（標高 1,569m）を経て伊那地方に入り、北上して松本から錦織駅を通過して、保福寺峠を越えて現在の青木村付近の浦野駅（この駅とは約 16 キロごとに置かれた伝馬の駅家のこと）にいたります。この道はさらに上田の信濃国府から小諸を経て碓氷峠を越え上野に入り、下野を経て陸奥国多賀城国府にいたるもので、律令国家の北方政策を支える最重要路線といえます。

一方、この東山道の歴史的な背景とは別に近代化に邁進する明治時代、多方面にわたり来日外国人が活躍しましたが、近代登山（スポーツ登山或はアルピニズム）を日本に伝え、また日本アルプスをその著書により世界に紹介した一人が英国人の司祭ウォルター・ウエストンだそうです。明治 24 年夏、未だ長野県内の鉄道路線が十分整備されていない中、日本アルプスに挑戦するため、上田から保福寺峠を経て松本へ至るルートを探りアプローチしました。その道中は上田から人力車に乗り浦野駅跡を過ぎ急な峠道では車夫の労力軽減のため、人力車を降りて徒歩で保福寺峠に向かいました。午後 6 時夕暮れの保福寺峠に到着し、感動の絶景に出会うことにな

る。「私達は海拔四千五百呎（フィート）の山頂に達した。それからその山陵の割れ目の左側にある円丘に立つと、私達の心引かれていたあの大連峰の全景が突然眺められた。私達は思いがけなくその眺望に接したので、その壮麗さはただ驚嘆するばかりだった。」と、そのときの感動をウェストンはその著書「日本アルプスの登山と探検」に記している。



東山道マップ（青木村東山道マップの会作成の山道ウォーキングマップより）

以上のようなところが一応の東山道保福寺峠の概略で、今回のごく短時間の訪問であった保福寺峠に関する事前知識であります。

古道歩きの旅 東山道保福寺峠

此の旅は金子先輩が保福寺峠に立つことを願い長年温めていたようです。それに太郎良さんが乗って、私はそれに一緒させてもらおうという随伴人のようなものではないでしょうか。私ども3名は、令和という馴染みの悪い年号の元年11月5日、晩秋の雲一つない快晴の天気の下、北陸新幹線で旅立ち9時過には上田駅に到着、直ぐレンタカーで青木村に向け出発した。道中、先頃の台風19号では千曲川が各所で氾濫して甚大な被害をもたらしましたが、此の上田でも別所温泉に行く上田電鉄の鉄橋が流されるなどの被害が出ました。国道の橋を渡るときに千曲川の中にそのまま残置された鉄橋など台風被害すさまじい様子が窺えました。今回の旅も出発直前まで道路や旅館の営業など心配されましたが、何とか行けそうとの情報を得て予定通りにやってきたわけです。太郎良さんが青木村の郷土史家の人などから直接現地の情報を得るとともに、保福寺峠までのアプローチもお願いできたとのことでした。

さて、約20分くらいで青木村の道の駅に着き、既に当地の郷土史家の小林氏が居られて我々を待っていてくれました。氏は上田市から青木村を通った東山道の道の跡や数々の遺構の保存を進め、東山道の再現地図を作成する会の代表をされるなど、村おこしのため尽力されております。保福寺峠への最終宿場入奈良本へ向かう道すがら、東山道の浦野宿駅家（うまや）跡や各所の遺構や東山道の古道跡などに立ち寄り熱心な説明いただく。

入奈良本で保福寺峠への道が台風の影響で通行禁止とのこと、地元の警察官よりもたらされ、予定を変更して青木村周辺の東山道の遺跡や古道歩きをすることにしました。さらに小林氏の車で牧寄遺跡・東山道遺跡などをご案内いただく。その途中橋の工事をしていた地元の方から保福寺峠まで車の通行可能との情報がもたらされ、当初予定通り峠まで車で送っていただくことにな

った。

峠までの道は舗装はしてあるものの狭く急な曲がりくねりけっして走り易い道ではないが、台風の影響が思っていたよりも少なく、特に支障なく峠に到着。峠には万葉集の中の一首の歌碑（信濃路は今の墾り道刈株に足踏しむな履はけ我が夫）が万葉仮名で刻まれている。この歌は蝦夷地に行く防人や官人の妻が夫の道中の困難（保福寺峠などの信州の峠道か）を心配しうたったものと言われている。峠から一段上がったところにウォルター・ウエストン日本アルプス絶賛の地という立派な石碑が鎮座している。確かにこの峠から眺める北アルプスの乗鞍から常念岳や槍・穂高岳に至る一大パノラマは素晴らしいものです。あの時代外国から来て初めて北アルプスの光景に接した感動の程がうかがえます。



槍ヶ岳から穂高連峰・常念岳に至るパノラマ

既に 13 時近くなので、簡単に昼食をすまし入奈良本までの下り道をできるだけ東山道と思しき道跡たどることにする。先程峠までの途次小林氏より古道と現在の交差点点について仔細に案内してもらい、また道は意外に明瞭でそれ程歩き難い道でもなく、また「歴史の道東山道」という標識が要所々にあるので、迷うこともなさそうな気がする。地図を確認するとジグザグを切りながら県道 181 号線が何度か東山道と交差している。少々迷っても下に向かって同じ方角に降りていけば県道にでられるそうである。また、ここは古代から中世にかけて繁栄した道でもあるので、茶屋跡や小屋跡また石碑や石仏などがあり古道をたどる楽しみもある。

軽く昼食をとって、13時少し過ぎるころから峠からのすぐ北側に標識も有る草と厚い落ち葉に覆われた古道を下っていきます。するとすぐにと県道に道が切り取られてしましますが、その先の道型はわかるように続いています。まもなく県道脇に「峠の茶屋跡」という標識があります。昔の茶屋は峠では無く、少し下ったこの場所にあったようです。朽ちかけた小さな標識「里きのコース」のあるところから再度古道に入っていきます。少し行くと「石止観音」と言う標識がありました。



落葉に埋もれた東山峠茶屋跡付近

小さな石仏がひっそりと1基有ります。そこから同じような道跡を少し行くと「接待茶屋跡」という標識がありますが、大昔になくなったのか茶屋の跡らしきものは何も遺ってはいません。

そこから少し行くと突き当たり状の所が「上迫分」で、立派な石で作られた大きな古い標識があり、それには右北向山別所道・左浦野道（宿駅跡のある現青木村）と明瞭に彫られています。東山道からそれで別所温泉に行く道を行く人が多かったのかもしれませんが。私たちは当然車を

置いてある青木村に向け左方向を行います。



右北向山別所道と刻まれた石の道標

この「北向山」という意味が不明だったのですが、後で調べてみると別所温泉にある有名な北向観音堂の山号のようです。この先も道の跡らしきものが続いていますますがやや不明瞭で、古道かどうかわかりません。しかしそんなに歩き難いということもないので構わず降りていきます。スマホのGPSで県道との位置関係を確認しながら適当な所で県道に出ると、清水茶屋跡という標識があります。この先は古道の跡がよく分らないのと先が開けて市野沢集落へは県道をそのまま歩くこと

にしました。のんびりと紅葉の里山の風景を楽しみながらレンタカーを置いてある入奈良本の公民館駐車場に着いたのは丁度午後3時でした。峠から2時間ほどの短い古道歩きとなりましたが、径の不明瞭な箇所があったり古い石碑や地名の道標があって古道歩きを十分楽しむことができました。地元の人々の古道に対する思いが伝わってくるような気がします。

以上今回の東山道の古道の峠道を歩いた簡単な記録ですが、峠の下青木村の古道の遺構などを探索した時間を含めても約5時間にもならない僅かな時でしたが、実り多い一日であったと思います。台風19号の影響で各地の道路が寸断し或は千曲川やその流域河川の氾濫被害の残る中、運よく峠にも達して古代の官道東山道を跋涉できたことは大変運がよかったと思わざるを得ません。青木村の小林氏にはこのような状況下にありながら、嫌な顔一つせず都会から来た私共3人の老人に付き合い、東山道所縁の各所を熱心にご案内いただき、さらに保福寺峠まで車で送ってもらいました。誠にありがたいことで、感謝に堪えません。



左から太郎良 OB、案内人、宮前 OB

山の花の記憶

今 41 号の特集は「山の花の記憶」としました。実は 40 号の特集で企画したのですが、投稿が少なかったのが 41 号の特集となりました。80 代の年配の方から 20 代の若い人まで投稿頂き、変化に富む内容となりました。投稿者に感謝します。
(編集者)

山の花の記憶（１） 令和の涸沢カールと山の花たち

宮野準治（S35 年卒）夫妻

令和元年 6 月上旬に、残雪を踏みに涸沢カールに行ってきました。実はロッククライミングの楽しさを経験させてくれた滝谷を覗きに北穂まで行きたかったのですが、何しろ 83 歳のロートルには涸沢カールまでがやっと（言い訳になりますが今年は残雪が多かった）。とはいえ、30 年ぶりの涸沢カールを取り巻く穂高連峰は、私の登山の原風景です。

今回の稲山会通信のテーマは「山の花」ですが、無粋の私には、山の花は全て“ミヤマ〇〇”で、同行した花好きのかみさんにバトンタッチして、涸沢までの道のりに咲く山の花の素顔を紹介します。

山歩き・・・ 小学校の高尾山遠足以来でしょうか？
ましてや、登山など。6 月の涸沢？ 6 月に雪？
アイゼンなる物が必要とか？ 雪路をへずって歩く・・・ へずるって何だろう？
考えてもわからないことだらけで、いざ、出発。



イワカガミ

上高地から徳澤までは昨年歩いたので、順調に歩を進める。
所々に可愛らしい小さい花たちが微笑んでいる。スマートフォンで撮影しながら歩く私。
モタモタしていると、先を行く宮野隊長に置いて行かれてしまう（笑い）。

新村橋を過ぎた辺りから残雪を見る。WOW～！ 6 月にでも雪があるって本当なんだ！
この道を歩く為にアイゼンなる物が必要なのね！何事も経験。
一步一步、登って行く。ちょっと怖い雪路もへずった。
その先に“桜”、一瞬目を疑ったが、間違いなく桜の花。思わずパチリ。



ヤマザクラ

心が和む。ここまで頑張って登って来たご褒美のように思えた。
花の表情は様々で、明るい元気な子・恥ずかしそうにうつむく子・凜とした佇まいの子。
その中で「私を見て！」と言わんばかりに主張してきた子と目が合った。

「わかったよ！」とその存在をパチリ。あとから調べたらイワカガミだった。

次の日、涸沢ヒュッテから上高地まで、降りてくる途中にも、可愛い花たちとの会話は続く。
この雪のような鈴蘭のような花は何という名前だろうか？ 次回への宿題かな？

山の花の記憶（２）

小久保雅代（S38 年卒）

山の会雲ノ平集中夏山合宿、それが山の花との出会いです。大きく重いキスリングに喘ぎながら、ひたすら下を向いて歩いていた、いずれも長い縦走登山、歩き通すことが精いっぱいだった。

悪天候に、太郎平で 3 日間停滞して辿り着いた黒部五郎岳、チングルマの群落を踏み分け下って行ったカールで、苦しい登りから解放された心地好さと、足元の花々、迫ってくるような雄大な山々の美しさに圧倒され感動していた。

あの頃の記憶に残るのは、ハイマツの緑と砂礫地に咲くイワツメクサ、クモマミミナグサなど。

花に会いたくて何度も登った北岳。ミヤマハナシノブの群生する大樺沢から八本歯のコルを登り詰めた斜面に、キタダケソウを見つけた時の嬉しかったこと。そこから間ノ岳方面に向かう稜線から一段降りた巻道は、遠く富士を仰ぎ絶景の中をゆく、とっておきの天空の花街道。



ミヤマハナシノブ



イワギキョウ（白馬岳）

岩陰に立ち上がって凜と咲くイワギキョウ、よく似たチシマギキョウとの違いを確かめに通った白馬岳山稜。

雪の残る登山道、雪洞をくぐり抜け、霧雨の中、チシマザサかき分けて歩いた、焼石岳連峰。ゆるやかな起伏の先に連なる山並みを、一望することすることは出来なかったけれど。霧の雫をちりばめて、しっとりと咲き並んでいたミネユキソウ。



エーデルワイス

異国のアルプス、そそり立つ岩壁の足下に、一輪一輪、銀色に輝く、星のように咲き誇っていたエーデルワイス。

一期一会のあの花、この花に会うことは叶わない。あのカールの白い花たちにも。秋風立つ頃、高原に揺らぐ、ヒゴタイも懐かしい、九住山の麓を訪ねたい。遥かな花に想いを寄せ、儚い夢を追いかけています。

山の花の記憶（３） 山の花と野の草

行方正幸（S50 年卒）

高山植物というと、高校２年生(昭和 45 年)のときに、生物の Y 先生が夏に東北の早池峰山に登って高山植物の写真を撮ってきて、私たちにを見せてくれたことを思い出す。その時、生徒たちにハヤチネウスユキソウがヨーロッパのエーデルワイスと同じ種で如何に貴重な花なのか熱弁をふるっていた。当時、山をはじめてばかりだった僕は、「エーデルワイス」という名前に強く魅かれたのだ。

谷川岳のウスユキソウとニッコウキスゲ

「ミヤマウスユキソウ」という「エーデルワイス」の仲間が谷川岳にも咲いているというのを聞いたので、高校３年生(昭和 46 年)の夏休みに友人と三人で谷川岳の馬蹄形縦走に挑むことにした。日本のエーデルワイスは枯れ始めていてあまりパットしなかった。谷川岳を登り、芝倉岳を通過したところで仲間の一人が疲労困憊して動



ミヤマウスユキソウ



ニッコウキスゲ

けなくなってしまう。山には霧がかかり、日はドンドン暮れてくる。笹平の天場に着くにはもうひとつピークを越さなければならぬ。キスリングを武能岳のコルにデポして、ピンチだけ持って遭難の一步手前で笹平の避難小屋に逃げ込んだのだ。その時、黄昏ゆく笹平一面に咲くニッコウキスゲの鮮やかな黄色がいまでも忘れられない。

早大山の会に入ると、山へ行くたびに高山植物の名前を一生懸命覚えたものだ。小さな山溪のハンドブックをキスリングの奥にしまって天場に着くとシナノキンバイ、ミヤマキンバイ、チングルマ、コマクサなど探し歩いた。北アルプスの白馬岳、黒部源流の山々、中央アルプスの千畳敷、北海道大雪やトムラウシの山々。高山植物の可憐に咲いていたお花畑に感動していた。特に好きだったのは北穂沢にあった小さな秘密のお花畑で、滝谷の岩場を登った帰りに雪溪の脇に咲くチングルマやコイワカガミの群落の横に寝ころんで、岩と雪の殿堂涸沢に広がる蒼い空を見あげながら、アルプス登攀の夢に浸ったものである。

北岳バットレスとタラの芽

私の山の花の概念を一変したのは、23 歳(昭和 51 年)の 5 月に、石井スポーツの M 君と北岳バットレスに登りに行った時のこと、M 君は広河原の林道から突然崖を降りて枯れたブッシュの先に映えている若い木の芽を嬉しそうに摘んで、ポケットに入れて戻って来た。

「何をとっているの？」

「タラップだよ。ナメちゃん知らないの。コレって凄く美味いんだよ」

「……？」

「今夜の夕飯は期待して良いよ」

僕たちはこれから北岳バットレスの下部岩壁を登って横断バンドでビバークして、翌日に上部岩壁のシュバルツカンテを登って、その日に下山するつもりだった。そんなもの岩壁でビバークしている時に料理するのか？

5月中旬の大樺沢から北岳バットレスの取り付近迄は広大な雪原になっていて、5月の強烈な太陽が雪面を照りつけて顔の肌が焼けるように痛い。ピッケルとキックステップで下部岩壁の C ガリー大滝に取り付き、雪解けの滴でテラテラ光る花崗岩の岩壁を 3 ピッチ登りきり、第 4 尾根の取り付下の残雪の残るテラスでビバークをすることにした。

M君はポケットからタラの芽を取り出すと小さなコッフェルで湯がき始め、クリームシチュウに入れて食べさせてくれたのだが、旨かったどうか味はよく覚えていない。その夜にになって雨が降り出して、水量で真っ白になった D ガリー大滝をずぶ濡れになりながら 2 回の懸垂下降で逃げ出したものだ。

北岳バットレスの後 M 君と残雪の一の倉沢に向かえばフキノトウやウドや根曲竹のタケノコを採り、湯檜曾沢本谷ではクレソンや行者ニンニクを採り、奥利根の只見沢の沢登りでは岩魚釣りながら遡行した。山が食材の宝庫であるということを僕に教えてくれたのだ。



フキノトウ

里山の野草

結婚してから危険な岩登りや雪山をやめて、山と言えば一年に 1~2 度、会社の部下や家族と房総の山や高尾山をハイキングするくらいだった。

成田空港に就職して 10 年目。年齢 30 台後半の頃に環境アセスメントの仕事をしていたときに、空港周辺の土地の自然環境について調査したことがある。すると、成田の里山にも山菜と思っていたタラの芽がたくさん自生しているのを見つけたのである。以前からタケノコ掘りやワラビ採りが好きで、タラの芽を見つけてから僕も食べられる野草を妻と一緒に探して歩くようになった。フキノトウ、コゴミ、ゼンマイ、セリ、シソ、ミツバ、スカンポなど食用の野草がそこらの田んぼや神社の裏山にいくらかでも自生していたのだ。僕が特に好きなのはウルイとアブラコシである。

ハイキングの時だけではなく、日々の井の頭公園や多摩川の河川敷や付近の神社など散歩する時、どんな野草が生えているか注意して見てみよう。「ワラビの場所は親にも教えるな！」といわれるほど貴重である。所謂秘密の隠し金山であり、宝島ある。土地の所有者の方もいるかもしれないので、手当たり次第に採ると怒られるかもしれないので、食べるだけ摘むようにしよう。

料理方法は何が旨いのか

山菜や野草をどう料理するのか。なんと言っても天ぷらが一番である。それを天つゆで、醤油で、藻塩で食べる。次に味噌汁の具にしたり味噌で遭えたりする。最後に醤油やぼん酢や酢の物にする。



山菜・野草の天ぷら



野草を食べる会

それ以上のレシピを考えるのは面倒だし、マア山菜や野草はアクや香りが強いのでとにかく天ぷらにして食べれば何でも旨しくいただけるのだ。左記の写真は地元稲門会の野草を食べる会の様子である。春だけでもこんなに食べられる野草がそこいらで採れるのだ。山や野原が食材の宝庫だということがわかると風景が違って見えてくる。ハイキングや散歩がもっと楽しくなる。でも山にいったら熊には気をつけよう。食べられる山菜や野草を採りに行って熊に食べられたんじゃシャレにもならない。



すかんぼ



ウド



フキノトウ

(画：行方恵子)

山の花の記憶（４） チングルマ

厚木紗里（H31 年卒）

山には数多くの植物が存在する。「高山植物の女王」であるコマクサ、鮮やかな紫色のチシマキキョウなど、美しい草花を挙げていったらキリがない。しかし、一番印象に残っている植物は何かと聞かれたら、私はチングルマと答えるだろう。

チングルマと出会ったのは、2015 年の夏、大学 1 年生で参加した北アルプス縦走の時である。上高地から槍ヶ岳へ登り、鷲羽岳や水晶岳を通過して針ノ木小屋から扇沢へ下りる、というコースだった。高校生の時から登山はやっていたものの、一週間を越える縦走は初めてで、期待 3 割不安 7 割といった心情で登っていた。しかし 4 日目、早朝に三俣山荘を出発する時からかなりの勢いで雨が降っており、なんとか水晶小屋まで辿り着くも、靴も服もザックもびしょ濡れとなってしまった。そして 5 日目も天気は回復せず、意を決して雨の中を進むも、野口五郎岳付近では立っているのも大変な程の風が吹き付けてきた。悪天候の中の山歩きを楽しむ心の余裕はなく、一刻も早くこの状況から抜け出したい、という思いでいっぱいだった。

そんな時に、稜線にへばりつくように群生している、奇妙な形の植物が目にとまった。近づいて見てみると、ピンク色の細い毛のようなものが天に向かって伸びており、細かな水滴が付着してキラキラと光っていた。おしべもめしべもない、花らしからぬその姿に、私は何故か強く心惹かれた。この植物は水晶小屋から烏帽子小屋までの稜線の至るところに群生しており、自然と視界に入るため愛着が沸いたことが理由の一つだろう。クラゲを逆さにしたような形状だったので、勝手に「逆クラゲ」と命名した。その後雨風が弱まる気配はなかったが、「逆クラゲ」を觀賞する、という楽しみを見出せたため、歩く気力を回復し、無事に烏帽子小屋に到着することできた。

下山後に調べたところ、「逆クラゲ」の正体は、かの有名な高山植物、チングルマの花が散った後の姿だということを知った。

今思い返せば、山の景色も満足に見られず、雨風で体温を奪われて、精神的にも体力的にも厳しい状態だったため、何かを心の拠り所にしたかったのだろう。それでも、強い雨風に吹かれながら、互いに寄り添うようにして懸命に生きるこの植物に、山を歩き続ける勇気をもらったのは紛れもない事実だった。いつの日か、水晶小屋から烏帽子小屋に群生するチングルマ、いや、「逆クラゲ」に会いに行き、お礼を言おうと思う。その時はもちろん、天気は晴れでお願いしたい。



チングルマ

秋のハイキングについて

2020年の春のハイキングは4月5日(日)に陣馬山を計画していましたが、新型コロナウイルス感染が拡大傾向にあり、集団行動が懸念される状況のため中止を決定し3月20日にメールで連絡しました。

秋のハイキングについては、10月11日(日)の実施を予定しています。但し、新型コロナウイルス感染症の今後の見通しが現時点では困難なため、実施の可否、コース等を含め状況を見ながら再検討をいたします。検討結果、計画の詳細等につきましては9月中旬～下旬にEメールで皆様にご案内いたします。

幹 事：松村幹雄（S48年卒） mykof04@s5.dion.ne.jp 080-5175-9695
柴原 至（S52年卒） info@hododakousan.co.jp 090-3140-5014

訃報

令和1年7月9日に仲沢文男さん(S37卒)がご逝去されました。

令和1年11月28日に太田謙さん(S38卒)がご逝去されました。

令和1年12月26日に梅崎興一郎さん(S40卒)がご逝去されました。

令和2年2月1日に鈴木精一さん(S40卒)がご逝去されました。

故人を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

2019年度会計報告（2019年1月1日～12月31日）

稲門山の会

単位：円

項 目	収 入	支 出	残 高	備考欄
前年度からの繰越金（預金・現金計）			3,140,274	
年会費（振込分）	298,000			4,000円 x 74.5名
年会費（新年会時入金分）	164,000			4,000円 x 41名
新年会会費	300,000			6,000円 x 50名
預金受取利息	84			郵便定期預金利息
収入合計	762,084		3,902,358	残高は繰越金を含む
新年会費用		498,960		大隈会館支払
講師謝礼（総会・新年会）		100,000		講師：古野氏
稲山会通信作成費用		44,010		39号、40号
遭難対策費用		41,463		遭難事故現場立会（交通費等）
生花代		16,200		葬儀の献花
HPサーバー管理費用		43,740		ホームページビルダーサービス
登山教室教材費及び新勸チラシ費用		2,250		
振込用紙印刷代		1,102		
役員会費用		29,940		役員会会議室部屋代
事務局費用		100,000		
銀行振込手数料		3,104		
支出合計		880,769		
収支合計	762,084	880,769	3,021,589	単年度収支 ▲118,685
項目別預金残高内訳書				
一般会計：ゆうちょ銀行口座			180,985	通帳残高額を確認済
年会費入金振替郵便口座			891,432	通帳残高額を確認済
みずほ銀行口座			90,678	通帳残高額を確認済
特別会計：遭難対策費（ゆうちょ銀行定期預金）			843,000	通帳残高額を確認済
遭難対策費（みずほ銀行定期預金）			1,015,494	通帳残高額を確認済
預金合計			3,021,589	

上記の会計報告を致します

会計幹事 新井昭夫

（代表により銀行通帳残高書と照合確認済み）

編集後記

本年1月の総会で代表を退任し、稲山会通信の編集(約10年)からもお別れと思っていたのですが、新体制をしばらくサポートするとの約束事があり、通信41号の編集は斉藤が担当し、デジタル化は島田前副代表が担当しました。

2月になり、クルーズ船・ダイヤモンド・プリンセスでの新型コロナウイルスの感染が報道され、以後日本でも感染者が急増し、4月には緊急事態宣言が発令され、5月末には感染者1万8千人、死亡者が900名の未曾有の事態となりました。日本人の衛生観念や外出自粛の努力もあり、現在(5月末)緊急事態宣言は解除されましたが、まだ安心はできません。山の会の現役・OBの感染者は幸いにして聞いておりませんが、大変な1年になりそうです。

さて、今回の投稿は宮前OBにお願いした「信州古道歩き」ですが、宮前OBなかなかの文人です。山の会のOBでなければ書けない、抒情、知性あふれる文章に感動しました。

今回の特集「山の花の記憶」には宮野OB、小久保OG、行方OB、厚木OGに参加頂きましたが、宮野OBの奥様始め、皆さん詩人です。20代から80代までの感性鋭き老若男女、こちらも山の会ならではの特集となりました。

編集担当の斉藤は、学生時代はどちらかというと「雪と岩」派で、山の花を見て涙を流すロマンチストではなく、又何故か山の花の名前を覚える才覚もありませんでした。後年になり、山再開後、気持ちに余裕が出来たのか、山の花の名前を少し覚えるようになりましたが、覚えているのはチングルマ、ニッコウキスゲ、コマクサ、クルマユリ、シャクナゲ程度です。山の花の種類が多さでは白山、壮大さでは尾瀬のニッコウキスゲ、綺麗だったのは十文字峠のシャクナゲ、総合点で一番は大雪山・旭岳、エゾノツカザクラのお花畑が私の印象です(7頁に写真掲載)。

山の花で記憶に残るのは、エヴェレスト街道5,000mの高所(マカルーが見える展望台)で咲いていた可憐な花です。名前はわかりません。多分世界一高いところに咲いている高山植物かと思い、ここに添付しご紹介しておきます。もう1枚は4,000mの高山植物です。

多分この41号が斉藤の編集する最後になると思います。皆さんお元気で。バイバイ。

斉藤雄二(S41年卒) 記



標高 4,000m の花



標高 5,000m の花